

性周期と好まれる気温の関係

○佐々尚美*、久保博子*、磯田憲生*、梁瀬度子**

(*奈良女大、**武庫川女大)

【目的】女性は性周期により、排卵から月経までを高温期、後は低温期という二相性を示し、平均28日周期にて基礎体温が変動する。そこで、本研究では性周期と好まれる気温の関係について、健康な女子大学生を対象として夏期において好まれる気温に自由に調節する選択気温実験を実施し検討した。

【方法】奈良女子大学人工気候室を用い、不感気流、相対湿度50%一定として選択気温実験を行った。気温は調節前は28°C一定とし、調節を許した直後より被験者自身で自由に120分間気温を調節した。着衣は夏服0.3cloとした。測定は皮膚温などの生理的反応と温冷感・快適感などの心理的反応について行った。実験は1995年～2000年の夏期に実施し、被験者数は延べ161名であった。また、2000年夏期において同一被験者11名を対象に各被験者毎に実験時間（午前・午後）を統一して低温期と高温期の合計2回実施した。【結果】最終的に被験者自身が調節した気温を選択気温とすると、161名における性周期別の選択気温は低温期(91名)27.0±1.8°C、高温期(70名)26.8±1.4°Cであった。また、各性周期における午前・午後別の平均選択気温は何れの時間も低温期は27.0°C、高温期は26.8°Cであり、実験時間による差は認められず、低温期よりも高温期の方が若干低い選択気温であったが有意な差ではなかった。一方、同一被験者では、性周期に関わらず、各被験者毎に気温調節の傾向は良く似ており、選択気温は各被験者毎にほぼ同じであった。また、選択気温時の平均皮膚温は同じ被験者ではほぼ同じ皮膚温である傾向を示したが、直腸温は同じか高温期の方が高い傾向を示した。